

I スクール・ミッションと3つのスクール・ポリシー**<スクール・ミッション>**

体験的なキャリア教育を通して幅広い教養と豊かな情操を養い、グローバル化が進展する社会の中で自ら課題を設定して解決に導く力を伸ばし、何事にも高い志をもってチャレンジする精神を育むとともに、日本の文化や歴史を理解し、他者を尊重して国際社会でたくましく生き抜く人材を育成します。

<グラデュエーション・ポリシー>

高い知性と豊かな情操、心身ともに健康でくじけぬ心とたくましい体を持ち、自律・互敬の精神をもって他者と協働して社会をたくましく生き抜く力を磨きます。また、探究心と知的好奇心にあふれ、自ら考え、学びに向かう力を活かして、グローバルかつ多角的、多面的に物事を捉え、自ら課題を設定して解決し、未来を自ら切り拓くことができる人材を育成します。

<カリキュラム・ポリシー>

2年次までは、一人一人が、自らの将来を展望し、青年期にふさわしい広く深い知識に裏付けられた教養を主体的に身に付けて人生を豊かなものとするために、学問分野を限定せず、すべての教科をバランスよく学びます。3年次では、多様化する大学入試への対応と、個々の進路希望の具現化を目指して数多くの選択科目から、個々の進路希望に応じた教科・科目を選択して、集中的に効率よく学びます。

<アドミッション・ポリシー>

生徒一人一人が確かな学力と心身ともに健康な体力を身に付けるために、教科学習だけでなく、学校行事や部活動も盛んに行われています。そのため、本校を志望する生徒には、次の条件を満たし、さらに発展させる推進力と熱意を求めます。

①学習意欲に富み、十分な学習成果を上げている生徒

②将来の進学に対する目的意識が明確で、向上心をもって自ら進路を切り開こうとする生徒

③生徒会活動や部活動、学校行事等にも積極的に参加・貢献し、入学後もこれらの活動に参加・貢献しようとする生徒

II 中期的目標と方策**<目 標>**

- 1 知ることの喜びや知ることの方法を学び、知的好奇心を弾みに主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、一人1台端末の授業での活用を推進し深い学びの実現を目指す。
- 2 組織的な進路指導を行いより高い目標の実現を目指すとともに、国内のみならず国外も視野に入れた進学実績を向上させる。
- 3 特別活動への取組を通して豊かな人間性や資質を育み、自主性や他者への貢献の心を涵養する。
- 4 凡事徹底を実践し、社会人として通用する規範意識の確立を図るとともに、安全・安心な学校生活を送れる環境を整備する。
- 5 心身共に健康な生活を送れるよう健康保持や体づくりを進めるとともに、相談できる体制を充実する。
- 6 東京都から指定された「Global Education Network 20」(以下GE-NET20)事業を推進しグローバル人材育成教育を進め、多様性を尊重し共生社会の実現に向けて貢献できる人材の育成に努める。
- 7 教育内容や教育活動の成果などを発信し、広く都民に信頼される学校づくりを進める。
- 8 全教職員が課題を共有し、「チームムサキタ」で一丸となり協力して課題解決に取り組むとともに、各分掌における効率的な校務運営に取り組む。

<方 策>

- 1 探究的な活動を推進し考え抜く力や知識や技能を活用する力を育成し、生徒が主体的に学ぼうとする姿勢を養うとともに、一人1台端末の授業での活用により生徒一人一人に応じた指導を行う。
- 2 進路指導部主導の計画的、継続的、組織的な進路指導を教職員全員で実施し目標の早期設定や高い志の維持等を図るとともに、データ分析、定点観測及び国内外の大学進学情報を提供し生徒の進路希望実現に取り組む。
- 3 部活動や学校行事において、努力することの大切さや達成感を体感させ、仲間への連帯感や学校への帰属意識を育成する。
- 4 あらゆる機会を通して、社会人として通用するマナーを身に付けさせるとともに、学習環境等の整美に努める。
- 5 保健指導等を通して心身の健康管理の意識を高めるとともに、生徒・保護者の相談体制を整える。
- 6 GE-NET20事業の推進により「使える英語」「豊かな国際感覚の醸成」「日本人としての自覚と誇りの涵養」を身に付けさせ、グローバル人材を育成する。
- 7 保護者・地域及び中学校等に対してホームページ等を通して教育活動を積極的に情報発信し、募集対策の充実を図る。
- 8 ICTを活用するなどして、主幹会議、企画調整会議を核に学年会、分掌部会、経営企画室との情報の確実な共有により「チームムサキタ」で教職員が一丸となり組織的な校務運営に努める。

<成果と課題>

- 1 双方向の授業を推進することで、生徒が主体的に学ぼうとする姿勢を育んだ。授業や特別活動において一人1台端末の活用を推進している。来年度に向け、探究的な活動を推進するための組織編制を行った。今後はさらに個別最適化の学びに向けて効率的な活用について検討を進める。
- 2 進路指導部が中心となり各学年の進路指導担当者と連携を図りながら、3年間の計画的な進路指導を学校全体で実践している。生徒の早期の目標設定や高い志の維持を働き掛けた結果、5教科7科目の共通テスト受験率が大幅に向上する等、進路意識が向上している。模擬試験や学習状況調査の結果を分析、共有しながら教育活動を展開してきた。海外大学進学オンライン講座を実施し、1年生7名の生徒が参加した。生徒の高い進路希望実現のため、過去のデータを活用しながら支援体制をさらに充実させていくことが課題である。
- 3 新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限される場面もあったが、必要な対策を講じながら体育祭、文化祭、合唱祭を全校実施し、生徒が達成感を感じられる活動を実践することができた。コロナ後の活動をさらに充実させていくことで、生徒の自主的、主体的な活動を推進していく。
- 4 生徒会執行部等を中心に生徒の自治活動を進め、学習環境等の整美に努めるとともに、生徒一人一人のルール・マナーを遵守する意識を高めることができた。一部公共の場所の使用について地域住民から指摘を受ける場面があり、今後さらに規範意識の醸成に努める必要がある。

- 5 スクールカウンセラーを効果的に活用し、生徒や保護者の心身の健康管理体制を整えることができた（生徒94人・保護者61人）。保健講演会「デートDVについて」を実施する等、自己の健康の保持増進について考える機会を設定できた。今後さらに生徒が自らの健康について考える機会を充実させていく必要がある。
- 6 TARGET1において「オンライン英会話」「TGG活用に向けた準備」「4技能型英語検定GTEC」「JETプログラムを活用したイングリッシュラウンジの設置」、TARGET2において「総合的な探究の時間との関連付けた取組、論文の作成」「SDGsに関連した講演会」、TARGET3において「イングリッシュキャンプ」「海外大学等進学支援講座」、TARGET4において「多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成のための講演会」「文化プログラム」をそれぞれ実施することで、自ら課題を設定して解決に導く力や他者を尊重して国際社会でたくましく生き抜く力、他者と協働し、社会をリードすることができる力等を育成した。課題としては、その取り組みをより組織的、計画的に実施していくことである。
- 7 保護者・地域及び中学校等に対してホームページ等を通して教育活動を積極的に情報発信し、募集対策の充実を図った。（ホームページの更新回数2785回）
- 8 主幹会議、企画調整会議を核に学年会、分掌部会、経営企画室との情報の確実な共有により「チームムサキタ」で教職員が一丸となり組織的な校務運営を行うことができた。今後は効率的な学校運営のためにどうICTを活用していくか検討を進める必要がある。

III 今年度の目標と方策

1 学習指導

<目標> 生徒の高い学力の定着と教員の教科指導力の向上

<方策>

- (1) 授業での学習のねらいの明示、知識・技能を活用する場面の設定、話し合いや発表活動により生徒の主体的な学びを実現するとともに、オンライン教育を活用し生徒の学びを保証する。
- (2) 統合型学習支援システム等のデジタル技術を活用した教育を推進し生徒の学習状況に応じたきめ細やかな学習指導を行い、難関大学にも果敢にチャレンジできる学力を身に付けさせる。
- (3) 東京都の「理数研究校」として、生徒の理数に対する興味・関心を高めるとともに、各種科学コンテスト等への参加により生徒の理数に対する資質・能力の一層の伸長を図る。
- (4) 年に2回以上の教員相互の授業見学や「生徒による授業評価」の活用により、教員個々の授業力向上と教科指導力の向上を図るとともに、授業改善に向けた校内研修を実施する。
- (5) 調査・実力テスト、外部模試や授業評価を基に教科としての課題を明確にし、補習・講習を組織的に実施する。
- (6) 大学入試改革を見据えた研究・開発を行う。
- (7) 生徒の知的好奇心を醸成するために、図書貸出し数、図書館利用率を高め、読書活動を推進する。
- (8) 自習室や廊下の学習機の適切な活用を推進し、自学自習を定着させる。

<成果と課題>

- (1) 学習のねらいを明示し、話し合いや発表活動を多く取り入れる等、生徒の主体的な学びを実践できている。コロナで自宅療養している生徒に対してオンライン授業を行い、学びを保証した。今後さらに教員相互の研修を進めるなど双方向の授業を推進し、生徒の主体的な学びを実践していく。
- (2) 統合型学習支援システム等のデジタル技術を活用した教育を推進し、生徒の学習状況に応じたきめ細やかな学習指導を行った。今後さらに生徒に高い進路希望を持たせる働き掛けを行うとともに、難関大学合格を支援できる学習支援体制を整えていく。
- (3) 理数研究校として、科学の甲子園東京都大会（筆記競技・実技競技）に6名の生徒が出場し、総合順位11位（実技競技10位）の成果を上げた。また、研究発表会（ポスター発表）に4名が参加した。数学オリンピックに4名の生徒が参加した。数学オリンピックの出場にあたっては、放課後に講習を行い生徒の活動を支援した。今後さらに、生徒の理数に関する興味、関心を高める取組を学校全体に広げていく必要がある。
- (4) 年に2回以上の教員相互の授業見学や生徒による授業評価を活用することで、教員個々の授業力向上と教科指導力の向上を図った。今後さらに校内研修を充実させ、授業改善に向けた取組を推進していく。
- (5) 定期調査後の科や進路指導部が実施する模試分析会等を通して生徒の課題を把握し、生徒の課題に応じた補習、補講を組織的に実践した。必要に応じて毎日の10分間の朝学習で課題プリント配布、実施し、生徒の学力向上を図った。今後さらに生徒のニーズに応じた学習支援を充実させていく。
- (6) 共通テストトライアル（3年生）、共通テストチャレンジ（1、2年生）を実施して生徒の進路希望実現を支援した。今後さらに大学入試改革を見据えた生徒支援を、進路指導部を中心に組織的に実施していく。
- (7) GE-NET20事業を活用し、多読用の英文書籍を購入してそのコーナーを設けた。コーナー設置にあたっては図書館司書と連携し、その充実を努めた。今後も図書館司書と連携を密にして、より一層の読書の奨励と情報発信に努めていく。
- (8) 進路指導部を中心に進路ガイダンスや進路通信などを使って自習室、自習機の活用を呼び掛け、利用率を高めることができた。早朝や放課後、平日は午後7時まで、土日は午後5時まで開放している。今後も先輩から後輩へ学習に向かう姿勢が引き継がれるよう、支援を充実させていく。

2 進路指導

<目標> 「進学指導推進校」として、高い志をもたせる指導

<方策>

- (1) 進路指導部が作成した3年間の進路指導計画、キャリアプランに基づく組織的、系統的な指導を進路指導部と学年、教科の密な連携のもと推進し、生徒の高い志を育成する。
- (2) 5教科7科目共通テスト受験率を高め、生徒が第一志望にチャレンジできるよう3年間を見据えた進路指導体制を確立する。
- (3) 年3回以上の個別面談、うち1回は三者面談の実施等により「進路を自ら考え、選択できる力」を育成し、生徒一人一人に応じたきめ細かい進路指導を行う。
- (4) 迅速なデータ検証を基にした分析会・ケース会議を早期に実施し文系・理系ともに進路先を開拓するとともに、個に応じた教科指導の改善、指導に反映させる。
- (5) 進路講演会、訪問授業、大学訪問等をタイムリーに実施し、進路実現に向けた生徒の内発的動機付けを促す。
- (6) 教科毎に、組織的な長期休業中の講習を実施し、生徒の軸足を学校に置いた指導を行う。
- (7) スプリングセミナー、オータムセミナー等での体験学習を通して視野を広げ、夢に向かって自分のやるべき

ことを考えさせる。

<成果と課題>

- (1) 進路指導部が作成した3年間の進路指導計画に基づく組織的、系統的な指導を実践している。模試分析会や合格速報会など、教科や学年とタイムリーな情報共有を行うことで、生徒の学習支援を充実させることができた。今後も連携を密にしながら支援体制を充実させていく。
- (2) 1、2年生において実施したキャンパスツアー等の企画により国公立大学の魅力を伝えたことにより、5教科7科目を学ぶ意欲を高めることができた。加えて、最後まで諦めさせない励ましの指導を実践することで5教科7科目の共通テスト受験率が大幅に向上した。引き続き1、2年生からの計画的な指導を実践していく。
- (3) 年3回以上の個別面談を実施し、生徒が自ら進路を考え、選択できる力を育成することができた。3回のうち1回は三者面談を実施することを目標としていたが、全ての生徒に対して実施することはできなかった。
- (4) データ検証を基にした分析会・ケース会議を迅速に実施することで、個に応じた教科指導の改善、指導に反映させることができた。今後は経年変化等による分析結果を年間の学習指導計画に反映させ、より指導内容を充実させていく必要がある。
- (5) 1年生へのスプリングセミナー、2年生へのオータムセミナー、進路講演会や大学訪問等をタイムリーに実施することで、生徒が自己の進路について考えを深める機会を設定することができた。今後も働き掛けの機会を充実させ、生徒の高い進路意識を醸成していく。
- (6) 生徒の実態に即した長期休業中の講習を実施した。夏期講習(3年生57講座、2年生16講座、1年生14講座、計87講座)、冬季講習(3年生6講座、2年生3講座、1年生1講座、計10講座)、春季講習(新3年生4講座、新2年生1講座、計5講座)今後さらに充実した支援体制を構築していく。※講座数は対面で実施した講座数であり、表記の講座に加えてオンラインでの講座を実施している。
- (7) 1年生のスプリングセミナーでは高校生活のスタートにあたり自学自習についての意識を高めさせることができた。2年生のオータムセミナーでは外部講師による講演や大学模擬授業などを通して3年生に向けて進路意識を高めることができた。今後さらに指導内容を充実させていく。

3 特別活動・部活動

<目 標>学校行事、部活動の活性化により多様な人と共に、目標に向けて協力する力の育成

<方 策>

- (1) 学校行事への取組を通して、自主的、主体的な活動を推進する。
- (2) 学校行事の精選を行い、部活動と学習活動をバランスよく両立させる。
- (3) 部活動休養日を設定した部活動指導方針を明確にし、体罰や不適切な指導等の服務上の課題とは無縁な指導を徹底し、生徒の人権を尊重した部活動を運営する。
- (4) 部活動指導員及び外部指導員を活用し、部活動指導の効率的なシステムを整備する。
- (5) 東京2020オリンピック・パラリンピック後のレガシーを継続実施する。

<成果と課題>

- (1) 3年振りに、体育祭、文化祭、合唱祭を全校で実施することができた。それぞれの実行委員会中心に、生徒の自主的、主体的な活動を推進することができた。先輩から後輩へ引き継がれてきた伝統がコロナ禍の影響により途絶えた部分があるため、今後は良き伝統の継承を復活させていく必要がある。
- (2) コロナ禍による活動の制限が徐々に緩和され、活発な学校行事、部活動を行えるようになった。一方で、学校評価アンケートの学習と部活動の両立に関する項目の肯定的な評価が低調であり、文部科学省による部活動のガイドラインを(週に2日の休養日の設定等)参考に活動を検討していく必要がある。
- (3) 部活動指導方針を明確にした活動を実践できている。体罰や不適切な指導等の服務上の課題とは無縁な指導を徹底し、改善に取り組んだ。今後も体罰や不適切な指導等の服務上の課題とは無縁な指導を徹底していく。
- (4) 部活動顧問と部活動指導員等の連携が充実した活動に繋がっており、以下のような成果が上がっている。水泳部：全国大会出場(女子200m背泳ぎ9位、女子100m背泳ぎ15位)、陸上競技部：関東大会出場(男子5000m競歩で10位)、女子ハンドボール部：都大会ベスト16、男子バスケットボール部：総体予選4回戦進出等。今後も生徒がより達成感を得られる活動を支援していく。
- (5) 多様性を受け入れる精神など、東京2020オリンピック・パラリンピックで得られたレガシーを、今後もあらゆる教育場面を通して継続的に実践していく。

4 生活指導

<目 標>社会人としての規範意識の涵養

<方 策>

- (1) あらゆる機会を通じて「時を守り、場を清め、礼を正す」ことを指導し、社会人として通用するマナー、ルールを身に付けさせる。
- (2) 自転車の交通ルール・マナー指導を徹底するとともに、危険回避能力を育成する。
- (3) 良好な人間関係を築く基礎となるコミュニケーション能力を向上させるとともに、挨拶を自分から進んでできる生徒を育成する。
- (4) 学習等に落ち着いて取り組める現在の環境を維持するために、教室内の整理整頓、貴重品の管理及び美化活動を定着・習慣化し、安全・安心な学校という校風を堅持する。

<成果と課題>

- (1) ホームルームや授業場面等の機会を通じて、全ての教員が「時を守り、場を清め、礼を正す」生活指導を実践している。一部、マナーやルールについて地域の方から意見をいただく機会があり、社会人としての規範意識の醸成について引き続き指導を充実させていく必要がある。
- (2) 機会を捉えて自転車の交通ルール・マナーについての指導を行っているが、昨年に続き事故が発生している。引き続き、時間に余裕をもって行動させることや危機回避能力の育成に努める必要がある。
- (3) 教員が進んで挨拶を奨励することで良い雰囲気醸成されている。良好な人間関係構築のため、必要に応じて、担任、養護教諭、スクールカウンセラー等が生徒を支援することで、コミュニケーション能力の向上を図っている。引き続き支援を継続していく。
- (4) 教室内の整理整頓、貴重品の管理及び美化活動を定着・習慣化することで、学習等に落ち着いて取り組める環境を維持できている。貴重品の管理については一部課題が見られるため、引き続き管理意識の向上を図っていく。

5 保健・相談活動

<目 標>個々の生徒に配慮した教育活動

<方 策>

- (1) 体罰根絶、いじめの未然防止、早期発見・対応を行う。また、SOSの出し方に関する教育を推進し生徒の健全育成を図る。
- (2) スクールカウンセラーと連携した教育相談体制の充実及び、教育相談委員会の定期的な開催や校内研修により生徒情報を共有し、特別な支援を必要とする生徒への指導を充実させる。
- (3) 防災教育、避難訓練を地域と連携して計画的に実施し、生徒の健康や安全に対する意識の向上を図り、「自助」「共助」の精神を養う。
- (4) 薬物乱用防止やセーフティ教室等を通して、心身共に健全な生徒の育成を図る。
- (5) 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考に保健体育や家庭科の授業、部活動等とおして、体力向上と食育の充実に努める。

<成果と課題>

- (1) 体罰根絶、いじめの未然防止について、研修等の機会を捉えながら継続的に確認している。今後も継続して重要項目として取り上げ、対応していく。
- (2) 課題のある生徒に対して、養護教諭やスクールカウンセラー、担任等が連携を密にして情報共有を図ることによって充実した支援に繋がっている。今後は教育相談委員会の活用を充実させることで、より学校全体で支援できる体制を整えていく。
- (3) 地域の防災担当者と連携した防災教育、避難訓練を実施することで、「自助」「共助」の精神を養うことができた。次年度も引き続き充実した活動を実践していく。
- (4) 学年単位で保健講話等を実施して、心身の健康について考える機会を設定した。心身の健康の重要性について学年集会やホームルーム、授業での指導等、機会を捉えながら指導を重ね、引き続き健康教育を推進していく。
- (5) 保健体育や家庭科の授業、部活動等とおして、体力向上と食育の充実に努めることができた。今後もさらに指導内容を充実させていく。

6 グローバル人材育成教育

<目 標>系統的・計画的なグローバル人材育成教育の推進

<方 策>

- (1) GE-NET20 事業を組織的に推進し、「使える英語」「豊かな国際感覚の醸成」「日本人としての自覚と誇りの涵養」を身に付けさせ、グローバル人材を育成する。オンライン英会話、海外語学研修、スピーチコンテスト、海外修学旅行などを系統的に実施する。
- (2) ALTやJETの活用及び外部検定試験の実施等により、英語4技能を一層伸長させ、グローバル人材育成教育を推進する。
- (3) 東京都「文化プログラム・学校連携事業実施校」を活用し、日本の伝統文化の良さを理解し発信できる生徒、互いの文化を尊重した交流ができる生徒を育成する。

<成果と課題>

- (1) 4技能を意識した授業展開やオンライン英会話、イングリッシュキャンプ等を実施することで、生徒の英語力が向上した。GTEC：B1レベル以上2学年Advanced5 1名22%（昨年度24名10%）。オンライン英会話については、1学年、2学年の全生徒対象に各10回実施。2泊3日のイングリッシュキャンプには78名の生徒が参加。1年生の7名が海外大学進学オンライン講座に参加。コロナ禍により3月の海外語学研修は中止となった。
- (2) JETプログラムを活用したイングリッシュラウンジの設置や外部検定試験の実施等により、英語4技能を一層伸長させることができ、グローバル人材育成教育を推進することができた。今後は向上した英語力を実践的に使用する場面を充実させていく必要がある。
- (3) 東京都「文化プログラム・学校連携事業実施校」を活用し、日本の伝統文化に関する講演会を実施した。地域における多文化共生や多様性を認める社会実現に向けて理解を深めることができた。今後も自他の文化について理解を深める機会の充実に図っていく。

7 募集・広報活動

<目 標>積極的な情報発信

<方 策>

- (1) ホームページの迅速な更新等を通して日常の教育活動を適時に情報発信する。
- (2) 過去の地区別入学生生のデータを分析し、その結果を基に戦略的な中学校・塾訪問を行う。
- (3) 近隣地域との交流を積極的に行い、本校の特色をPRするとともに、存在感を高める。
- (4) 校内・外における学校説明会、塾訪問及び学校見学会、授業公開を実施する。募集・広報活動を全身体制で展開する。

<成果と課題>

- (1) 保護者・地域及び中学校等に対してホームページ等を通して教育活動を積極的に情報発信し、募集対策の充実を図った（ホームページの更新回数2785回）。更新の際には、各担当者が個人情報保護や人権への配慮等について十分留意する。
- (2) 近隣の中学校や学習塾を訪問し、入学選抜の方法や変更等について広報、周知を図った。昨年に比べ、中学校訪問の数は増加したが、さらに広報活動を充実させる必要がある。
- (3) 徐々に感染対策が緩和され、吹奏楽部の交流演奏会や陸上競技部の体験入部等、交流の機会を持つことができるようになった。学校PR動画を作成してより学校の魅力が伝わるよう工夫した。新たに春休みの新中学2、3年生対象の学校見学会を実施した。今後さらに広報活動を充実させ、学校の特色をアピールできるようにする。
- (4) 広報活動を充実させ、以下のような成果があった。
学校見学会・・・3170名（1585組） 学校説明会・・・1558名
個別相談会・・・186名（93組） 都立高校等合同説明会・・・88名（44組）
今後は、募集対策の取組概要をまとめて学校全体で共有することで、学校全体の取組みを強化していくことが必要である。

8 学校経営・組織体制・経営企画室運営・施設設備管理

<目 標>経営参画意識と協働意識の醸成及び適切な予算編成執行と教育環境の整備

<方 策>

- (1) 主幹会議、企画調整会議、職員会議等、各会議の運営改善及び業務の効率化を図る。
- (2) 主幹教諭、指導教諭、主任教諭、教諭各職層の職責を明確にし、業務を遂行させるとともに、OJT診断基準、執務ガイドラインを意識し、それに基づき、学校経営、組織マネジメントの改善に努める。
- (3) 新教育課程の確実な実施に向け、各教科・科目の到達目標、評価規準等の細部を明確に定め、カリキュラムマネジメントを構築する。
- (4) 若手教職員の育成、中堅教員の指導力向上に向け、各職層のベテラン教員の経験を活かした職場内でのOJTや教員相互の授業見学等の学び合う機会を増やし、教職員の育成を図る。また、校内研修を計画的に行い、教職員の資質向上を図る。
- (5) 校内イントラ等を活用し、ペーパーレス化の推進を図り、迅速な情報共有を行う。
- (6) 組織的かつ効率的な業務の遂行及び統合型校務支援システム等のデジタル技術の活用により、教職員のライフ・ワーク・バランスの推進を図る。
- (7) 執務環境の整理整頓、クリーンデスクに取り組み、日頃から個人情報保護を徹底するとともに、ミスを事故にしない組織的な業務運営を行い、服務事故を未然に防止する。体罰・不適切な指導やハラスメント等の服務上の課題とは無縁な教育を行う。
- (8) 経営企画室の業務進行管理と合理化を徹底し、経営参画型の経営企画室として機能させる。
- (9) 自律経営推進予算の執行状況について、四半期毎の資料を提示し適正管理するとともに、費用対効果やコスト意識をもった予算執行・要望のあり方を全教職員に定着させる。
- (10) 一般需用費のセンター執行を適切に行う。
- (11) 施設設備の安全管理及び修繕の早期発見、即時対応を推進する。

<成果と課題>

- (1) 主幹会議、企画調整会議、職員会議等、各会議の効率的な運営に努めた。引き続き、効率的な運営に向けて改善していく。
- (2) 主幹教諭、指導教諭、主任教諭、教諭各職層の職責を明確にし、業務を遂行させることで、学校経営、組織マネジメントの改善に努めた。今後も引き続き組織的な運営を推進していく。
- (3) 新教育課程の確実な実施に向け、各教科・科目が到達目標、評価規準等の細部を明確に定め、実践することができた。今後は実施後の反省を踏まえ充実した内容に改善していく。
- (4) 若手教職員の育成や中堅教員の指導力向上に向けての意識の高まりがあり、職場内でのOJTや教員相互の授業見学等の学び合う機会の設定により、教職員の育成を図ることができた。今後も校内研修を計画的に実施し、教職員の資質向上を図っていく。
- (5) 校内イントラ等を活用してペーパーレス化の推進を図った。一部の機能活用に限定されており、引き続き効率的な活用について検討を進めていく。
- (6) 組織的かつ効率的な業務の遂行及び統合型校務支援システム等のデジタル技術の活用により、教職員のライフ・ワーク・バランスの推進を図った。引き続き、業務の効率化を進めていく。
- (7) 体罰や不適切な指導、ハラスメント等の服務上の課題とは無縁な教育を実践した。執務環境の整理整頓、クリーンデスクについての働きかけを行うことで、個人情報の管理徹底を促した。引き続き服務事故未然防止の働きかけを行い、ミスを事故にしない組織的な業務運営を行っていく。
- (8) 経営企画室の業務進行管理と合理化を徹底し、経営参画型の経営企画室として機能させることができた。
- (9) 自律経営推進予算の執行状況について適正に管理した。今後はさらに費用対効果やコスト意識をもった予算執行・要望のあり方について、機会を捉えて全教職員に周知、定着させていく。
- (10) 一般需用費のセンター執行を適切に行った。引き続き適切な執行を推進していく。
- (11) 施設設備の安全管理について、修繕の早期発見、即時対応を推進できた。引き続き施設を安全に使用できるよう、計画的に対応していく。

IV 今年度の重点目標（数値目標） ①今年度目標 ②令和3年度結果 令和2年度結果

1 学習・進学指導の充実

(1) 授業満足度	①85%以上 ②83% ③79%	<u>83.6%</u>
(2) 5教科7科目共通テスト受験率	①50%以上 ②35% ③43%	58.7% (出願時) リサーチ時の受験率47%
(3) 国公立大学合格者	①64名以上 ②63名 ③58名	<u>64名 (3月30日判明分)</u>
(4) 難関私立大学合格者	①70名以上 ②69名 ③49名) ※延べ数	<u>39名 (3月30日判明分)</u>
(5) GMARCH合格者	①266名以上 ②265名 ③234名) ※延べ数	<u>223名 (3月30日判明分)</u>
(6) 授業以外の学習時間	①1学年：2時間以上 2学年：3時間以上 ②1学年：1時間44分 2学年：2時間41分	1年生2時間00分 2年生1時間48分 (第1回調査 7月) <u>1年生1時間36分 2年生1時間54分 (第2回調査 12月)</u> <u>1学年1時間30分 2年生2時間12分 (第3回調査 3月)</u>

2 部活動・特別活動の推進

(1) 学校満足度	①90%以上 ②85% ③85%	<u>88.4%</u>
(2) 行事満足度	①90%以上 ②93% ③85%	<u>92.0%</u>
(3) 部活動加入率	①95%以上 ②99% ③95%	<u>99.6%</u>

3 グローバル人材育成教育の推進

(1) グローバル人材育成教育（国際理解教育）満足度	①85%以上 ②78% ③81%	<u>79.6%</u>
----------------------------	------------------	--------------

4 学校広報活動の充実

(1) 学校説明会参加者数	①1900名以上 ②1585名 ③1900名	<u>1832名</u>
(2) 中学校・塾訪問数	①200校以上 ②26校 ③260校	<u>133校</u>
(3) 入学選抜最終応募募率	①推薦3.00倍以上/一般1.50倍以上 ②推薦2.02/一般1.39 ③推薦3.48/一般1.60	(推薦) 2.43倍 (男子1.92倍、女子3.00倍) <u>(一般) 1.55倍 (男子1.59倍、女子1.51倍)</u>

5 適切な予算執行と教育環境の整備

(1) 一般需用費のセンター執行割合	①50%以上 ②39% ③40%	<u>44.1%</u>
--------------------	------------------	--------------